



NIPPON KAYAKU BUSINESS STYLE

日本化薬株式会社 会社案内

## トップメッセージ

日本化薬は、1916年の創立以来100年を越えて  
基盤となる「火薬」「染料」「医薬」「樹脂」の保有技術を駆使し、  
これらを融合・変化させながら、時代のニーズに応える製品をつくりつづけてまいりました。

私たちには、企業ビジョンであるKAYAKU spirit  
「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続ける」の実現に向け  
サステナブル経営を推進することで、すべてのステークホルダーの信頼に応えるとともに  
モビリティ&イメージング事業領域、ファインケミカルズ事業領域、  
ライフサイエンス事業領域の3事業領域を通じて、  
持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

これからも社員全員がひとつになって、  
世界的すきま発想。で、新しいことにチャレンジしてまいります。

未来を豊かに、もっと楽しく。

これからも日本化薬グループにどうぞご期待ください。



代表取締役社長

浦 元 厚 岩

## 企業ビジョン

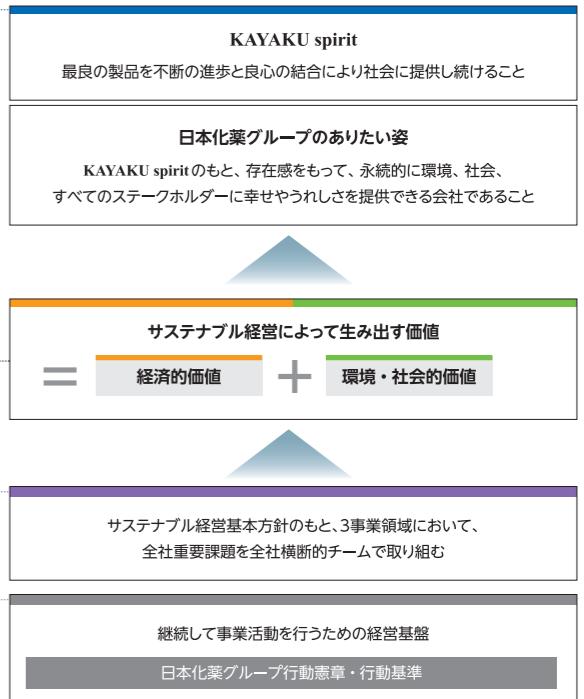
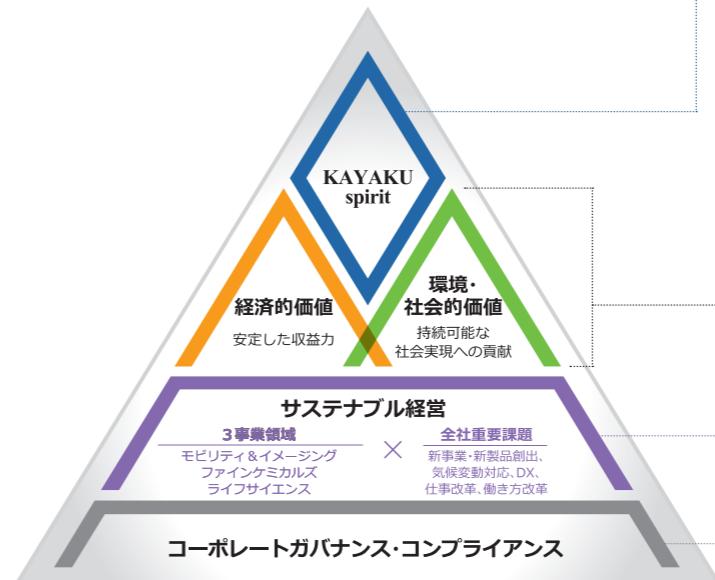
### KAYAKU spirit

最良の製品を不断の進歩と良心の結合により  
社会に提供し続けること

KAYAKU spirit は、全役員・全従業員が共通にもつ、  
私たちの「あるべき姿」(=企業ビジョン)です。

### サステナブル経営基本方針

私たち日本化薬グループは、  
企業ビジョンである KAYAKU spirit のもと、経営の透明性・公正性を確保し、  
事業活動を通じて持続可能な環境・社会の実現に貢献することで、  
すべてのステークホルダーの信頼に応えるサステナブル経営を実践します。



# ターゲット分野と事業領域・製品



日本化薬グループは3事業領域を将来性のあるマーケット領域と定め、ニッチ市場のグローバルNo.1を目指し、「世界的すきま発想。」で事業を展開しています。



# モビリティ& イメージング 事業領域

セイフティシステムズ事業およびポラテクノ事業を展開しています。  
変化するモビリティテクノロジーに対応した製品で  
世界中の人々に安全を提供し、社会に貢献していきます。

## ■ポラテクノ事業

ポラテクノ事業では、液晶ディスプレイ、タッチパネル、液晶プロジェクターなどに使われる偏光フィルム、位相差フィルム、無機偏光板、携帯型X線分析装置や電子顕微鏡などに使われるX線分析装置用部材を製造、販売しています。染料系偏光フィルムは、車載用や液晶プロジェクターなど高い耐久性が要求されるニッチな市場で強みを発揮しています。

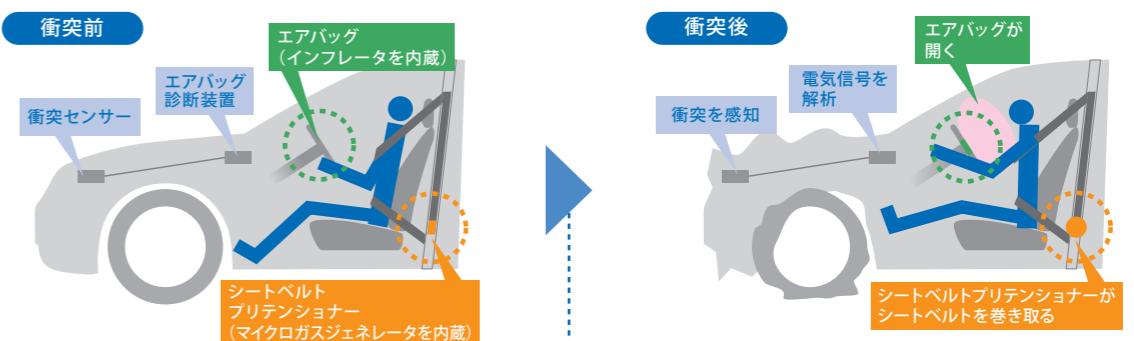


## ■セイフティシステムズ事業

セイフティシステムズ事業は、長年培ってきた火薬の技術を応用して自動車安全部品を研究開発・製造した製品をグローバルに提供しています。

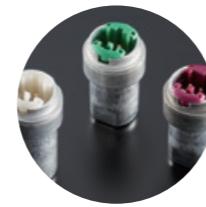
### ● エアバッグ用インフレータ

今や自動車安全装置として欠かせないエアバッグ。これを瞬時に膨らませる役割を果たしているのがインフレータです。金属製容器の中には当社が長年培ってきた火薬技術を応用したガス発生剤が装填されており、車両衝突時には1/1000秒単位でエアバッグの展開速度をコントロールします。



### ● シートベルトプリテンショナー用 マイクロガスジェネレータ

車両衝突時にシートベルトが自動的に数センチほど引き込まれる機能があるのをご存知ですか？このシートベルトプリテンショナーという装置にはマイクロガスジェネレータと呼ばれる小型ガス発生装置が組み込まれています。緊急時にガスの圧力でシートベルトを巻き取り、搭乗者の体を確実かつ安全に拘束します。



- 1 衝撃をフロント部に組み込まれた「衝突センサー」によって感知
- 2 「診断装置」が事故による衝撃か否かを判断
- 3 事故と判断された場合、電気信号がスクイブに伝達

- 4 電気信号からスクイブの点火薬に着火
- 5 ガス発生剤に着火しガスが発生
- 6 「エアバッグ」が膨らむと共に「シートベルトプリテンショナー」がシートベルトを巻き取り、搭乗者の受けた衝撃を吸収

※1.～6.まで0.05秒程度

### ● スクイブ

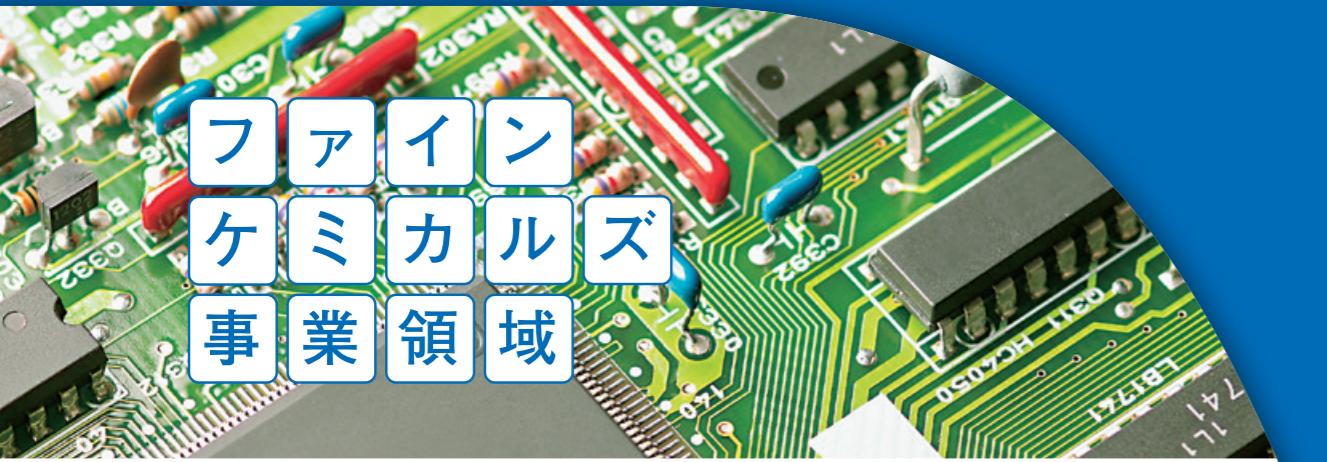
スクイブとはインフレータやマイクロガスジェネレータの中に組み込まれている小さな点火装置。車両衝突時に衝撃センサーからの電気信号を受け取って安全装置を作動させる重要な役割を担っています。長期間に亘って苛酷な環境下に置かれても、緊急時には確実に作動する高い信頼性が求められます。



## 産業用ドローン向けパラシュート安全装置「PARASAFE®」

自動車安全部品で培った火工品技術を応用し、ドローン用パラシュート装置「PARASAFE®」を開発しました。ドローンが不測の事態で落下した際に、素早くパラシュートを展開し、地上の安全を守るとともに、ドローンの機体やカメラなどの搭載物の破損を防ぎます。ドローンの機体、搭載物、人命、地上の設備を守り、社会におけるドローンのさらなる活躍に貢献します。



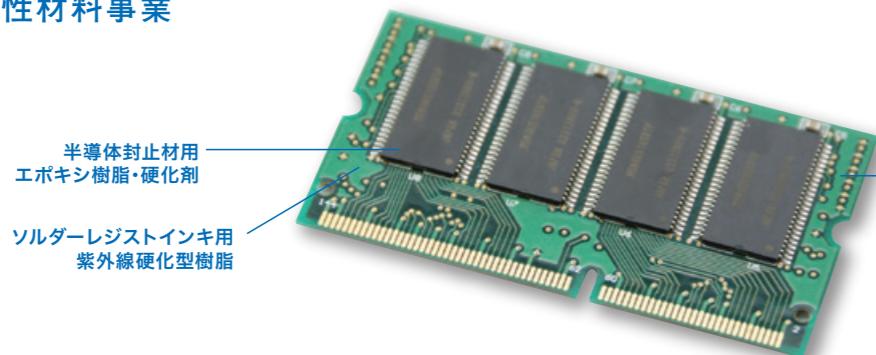


機能性材料事業、色素材料事業および触媒事業を展開しています。

技術を活かした価値ある製品を提供し、

豊かな暮らしと持続可能な社会に貢献してまいります。

### ■機能性材料事業



日本化薬では、半導体封止材やパッケージ基板用の絶縁材料であるエポキシ樹脂、カラーレジスト・ソルダーマスク・ハードコートをはじめとして広範囲の分野で使用される紫外線硬化型樹脂、次世代移動通信システム「5G」用基板に使用される高耐熱および信号損失を低減するマレイミド樹脂など、さまざまな機能を持つ材料を手がけています。

また、独自に設計した樹脂材料に組成化技術を応用した液晶シール剤、各種センサー用厚膜レジストおよびMEMS(微小電気機械システム)等の樹脂組成物や、液晶パネル(カラーフィルター)および半導体の製造工程で使用される洗浄剤・薬液(現像液・剥離剤)といった多彩で高付加価値な製品を幅広い領域で創造しています。

さらには、材料を貼り合わせるラミネーター、剥がすためのリムーバーおよびウェハーを支持体にテープと貼り合わせるマウンターといった半導体製造工程で使用する装置をラインアップに加え、樹脂製品だけではなく装置においても市場へ価値を提供してまいります。



エポキシ樹脂



ドライフィルムレジスト  
半導体製造装置

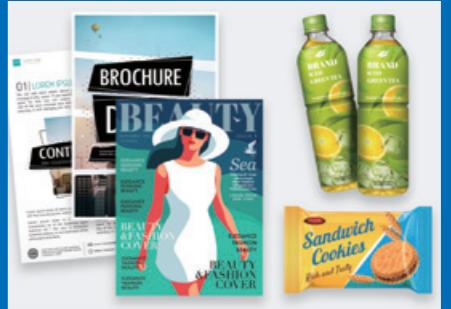
### ■色素材料事業

日本化薬は、染料の可能性を追求し、国内最大の染料メーカーとして業界を常にリードしてきました。その時代の顧客ニーズに応え、鮮明性、堅牢性、ハンドリング性などで特徴のある独自色材を開発し、繊維、紙パルプ、樹脂着色、インクジェットプリンタなどの市場へ幅広い製品を提供しています。

また、長年の色素材料で培った合成技術、分散技術、各種印刷&光学評価技術等を活かし、顔料、オーバーコート剤等の感熱記録材料、顔料誘導体(シナジスト)、二色性色素(ゲストホスト色素)、赤外線吸収剤等の各種機能性色素材料などさまざまな分野で社会に貢献できる特徴のある材料を創造しています。



インクジェット用色素



産業用インクジェットインク  
(雑誌・ラベル・包装資材等)



捺染インクジェット用染料  
(スカーフ等)

### ■触媒事業



水族館の水槽



触媒とは、日常生活で目にする最終製品などの原料をつくるために使われている重要な物質です。触媒の品質が製造コストを左右し、ひいては最終製品の価格などに大きく影響します。日本化薬では、アクリル酸・メタクリル酸(直酸法)を製造するための触媒の開発・製造・販売を行い、顧客から高い評価を得ています。

アクリル酸は、紙おむつなどに使われるSAP(高吸水性樹脂)、自動車用などのアクリル塗料や接着剤、水処理用高分子凝集剤などの原料として使用されます。

メタクリル酸は、FPD用導光板などの光学関連用途、水族館の巨大水槽で使用される透明樹脂や自動車用部品、人工大理石などに使用されています。

また、次世代クリーンエネルギー分野に向けた触媒の開発を進めています。これまで培ってきた技術を活かし、地球環境にやさしいエネルギーに貢献できるよう挑戦しています。

# ライフサイエンス 事業領域

医薬事業およびアグロ事業を展開しています。

優れた医薬品等の開発により新たな治療の機会を提供するとともに、

医薬品を安定供給し人々の健康に寄与してまいります。

また、環境にやさしい優れたアグロケミカルを提供し、

持続可能な農業の発展に貢献してまいります。

## ■医薬事業

### 医療用医薬品(国内)

日本化薬のがん治療への取り組みはブレオ®の発売以来、数多くの製品を提供しています。豊富ながん関連製品ラインアップやその情報の集積、ノウハウは当社の強みです。全国にがん専門MRを配置するとともに、医薬品情報センターを設置し、医療関係者などからのお問い合わせに対応し、医療の一翼を担うべく、適正使用情報を医療現場にお届けできる体制を整えております。



### バイオシミラー(バイオ後続品:BS)※

日本化薬は、がん治療や自己免疫疾患治療の主要な役割を果たしている医薬品のバイオシミラーの開発を進めています。2013年に日本化薬初のバイオシミラー「フィルグラスマチムBS」を、2014年に日本初の抗体バイオシミラー「インフリキシマブBS」、2018年に「トラスツズマブBS」、2022年に「ペバシズマブBS」を上市しました。

※バイオシミラー(バイオ後続品:BS)…バイオシミラー(バイオ後続品:BS)とは、「国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(先行バイオ医薬品)と同等／同質の品質、安全性及び有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品」のことをさします。



## ■アグロ事業

### 農業用薬剤

製薬技術やノウハウを蓄積し、時代のニーズに合わせた農薬を提供しています。

#### 殺虫剤「ファインセーブ」

新規作用性をもち、防除が困難な作物害虫アザミウマ類などに効果の高い新規殺虫剤ファインセーブを2018年6月から提供しています。



#### 気門封鎖剤・殺菌剤・展着剤「フーモン」

化学農薬のみにたよらない総合的病害虫管理に適した農薬としてフーモンを提供しています。殺虫効果のみならず、殺菌剤、展着剤の性能もプラスしています。



他にも、処理が簡便で安定した効果が得られる「クロピクフロー」、「拡がる」と「くっつく」の2機能を両立させた新しいタイプの展着剤「ワイドコート」等、工夫を重ねた製剤を開発してきました。

### 防疫用薬剤(衛生害虫防除用薬剤)

ゴキブリ・トコジラミ・マダニ等、衛生害虫防除用の薬剤を提供しています。



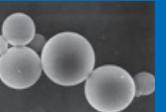
#### 殺虫剤「サフロチンMC」

従来から衛生害虫防除に使用してきた「サフロチン」をマイクロカプセルに包みました。効果が長く持続するようになり、安全性も高まりました。特にゴキブリでは、消化管の特殊な構造でカプセルが破壊され、高い効果を発揮します。

### その他薬剤

#### 動物忌避剤「R-731」

トウガラシの辛味成分「カプサイシン」をマイクロカプセルに包んだ動物忌避剤です。ケープルなどに練りこみ、ネズミがかじってしまう被害を防止します。



### 原薬および輸出事業

原薬事業として発酵技術と抗がん薬で培った高薬理活性物質の製造技術を活用し、医薬品の原薬、中間体の受託製造を行っています。また、輸出事業としてブレオマイシンをはじめとする抗がん薬を欧州、ロシア・CIS諸国、アジア他世界各国に輸出しております。



### 診断薬

臨床医療における診断や検査には不可欠な診断薬(体外診断用医薬品)を提供しています。日本化薬オリジナルの診断薬の開発や新しい測定方法を開発し、主にがんや糖尿病関連の製品を製造・販売しています。また国内だけではなく、米国FDA(食品医薬品局)の承認を取得し、米国を中心に海外展開しております。





## 基盤技術について

### 多様な技術の蓄積が、今の事業を支えています。

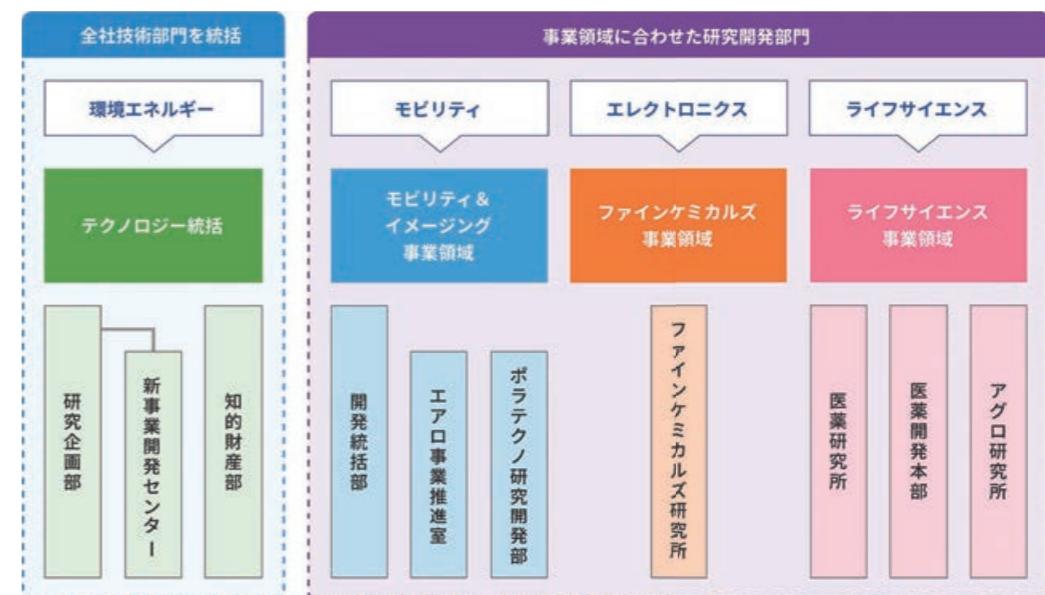
日本化薬は、研究開発方針のありたい姿として「研究開発により新事業・新製品を創出し企業価値を向上させる」を掲げております。これまで培ってきた技術に加えて、様々な技術を積極的に導入することで、基盤技術を深化させながら様々な製品を社会に提供してきました。また、知的財産を継続的に創造・活用することにより、基盤技術の拡大と共に知的資産を増強しながら事業を拡大してまいりました。今後も、オープンイノベーションなどによる新しい技術の導入や研究DXを積極的に利活用しながら、基盤技術をさらに強化・拡大させ、今後、大きな成長が期待できるターゲット4分野(モビリティ、環境エネルギー、エレクトロニクス、ライフサイエンス)において新事業・新製品を創出し、社会に貢献していきます。



## 研究開発体制

### 研究開発部門のあいだに“すきま”はありません。

日本化薬の研究開発体制は、新規事業開発や変化の激しい技術革新へ対応するために、全社技術部門を統括する「テクノロジー統括」を設けております。また、事業部門においては、将来の成長が期待できる研究開発ターゲット分野に合わせた研究開発体制としております。



#### ○開発統括部(セイフティシステムズ事業)

エアバッグを瞬時に膨らませるインフレータや、シートベルトを瞬時に巻き取るマイクロガスジェネレータなど自動車安全部品の開発を手がけています。



#### ○ファインケミカルズ研究所

樹脂・色素・触媒技術をコアに更に進化させ、情報・通信、デジタル印刷、省エネ・省資源、センシングの分野へニーズに合った特徴ある新製品の開発を担っています。



#### ○医薬研究所

低分子創薬からバイオ技術・高分子合成技術を用いた新規抗がん薬、バイオシミラー、ジェネリック医薬品および体外診断薬の研究開発を進めています。



#### ○アグロ研究所

豊かで、安全で、安心できる食品の供給に貢献するために、環境に優しい化学農薬や新規機能性農薬製剤の研究開発を行っています。

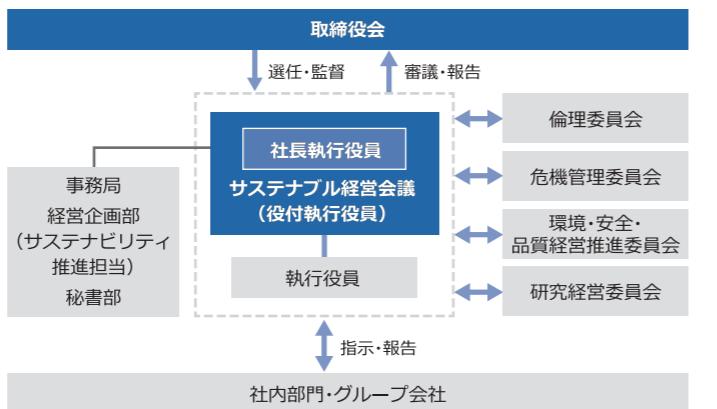


# サステナビリティ推進活動

日本化薬グループは企業ビジョン KAYAKU spirit のもと、すべてのステークホルダーの信頼に応えるサステナブル経営を推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

## サステナビリティ推進体制

日本化薬グループは取締役会の直接監督の下、社長執行役員を議長とするサステナブル経営会議を設置し、グループ全体でサステナビリティの取り組みを推進しています。サステナブル経営会議の傘下には、倫理委員会、危機管理委員会、環境・安全・品質経営推進委員会、研究経営委員会の4委員会を設置し、定例および必要に応じて開催することにより経営の透明性・公正性を確保しています。



## SDGsとKAYAKU spirit

SDGsの考え方は、「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」という、日本化薬グループの企業ビジョン KAYAKU spirit の考え方と同義であり、KAYAKU spiritの実現のための企業活動は、国連の目標とは規模やターゲットが異なるもののSDGsの実現と合致すると考えています。

当社グループのサステナビリティ・アクションプランでは、SDG Compassを活用し、各重要課題とSDGs17目標の紐付けを実施しました。環境・社会的価値と経済的価値を創造し、持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指すとともに、SDGsの達成にも貢献していきます。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 品質と顧客の安全

日本化薬グループはレスポンシブル・ケア精神のもと、環境保全、安全衛生の確保および品質保証の維持向上のため、「環境・健康・安全と品質に関する宣言」を制定しています。製品の安全性・信頼性に配慮し、技術サービスや情報提供がお客様の満足度向上につながるように活動しています。



## 省エネルギー・地球温暖化対策活動の推進

日本化薬グループは、「気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures、以下TCFD\*)」提言に賛同しました。

TCFD提言に基づき、気候変動にかかるリスクと機会およびその財務的影響、温室効果ガス排出量の削減や循環型社会の構築に向けた取り組みについて開示しています。

\*TCFD:2015年に金融システムの安定化を目的に、金融安定理事会(FSB)によって設立されたタスクフォースで、企業の気候変動に関するリスクと機会に関する情報開示を推奨しています。



## 雇用の維持・拡大と人材育成、人権尊重

● ダイバーシティ&インクルージョンの推進  
日本化薬グループは、従業員一人ひとりが「仕事のやりがいや充実感を感じながら活き活きと働くことのできる会社」の実現に向けて、ダイバーシティ&インクルージョンを推進しています。  
多様な個性や価値観をもった人材が、互いの違いを認め合いながら、個性・能力を最大限に発揮できる環境の整備や風土の醸成により「社会から信頼される会社」「強い会社・いい会社」を目指します。

● 日本化薬グループ人権方針の制定  
日本化薬グループは、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく、「日本化薬グループ人権方針」を制定了。本方針の制定により、今後、人権デュー・ディリジェンスの仕組みを構築し、当社グループが事業活動を通じて人権侵害に関与することがないよう、リスクを特定した上で未然防止および影響の軽減を図ります。また、ステークホルダーとの対話と協議を真摯に行い、実効的な苦情処理メカニズムの構築、適切な情報開示を進めるほか、継続的な人権教育等を通して、人権尊重の企業風土を醸成します。

## サプライチェーンにおける環境・社会配慮

日本化薬グループは、持続可能な社会を実現するために「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」「購買理念」「購買基本方針」に基づき「サステナブル調達ガイドライン」を定め、お取引先に周知しています。

研究・開発から原材料の調達、製造、販売、物流までのサプライチェーンすべてのビジネスパートナーのみなさまと一緒に人権尊重をはじめ環境保全、労働安全衛生、法令遵守、公正取引などに配慮したサステナブル調達を推進しています。

## 社会貢献活動

● 難病とたかう子どもと家族の滞在施設「あすなろの家」  
「あすなろの家」は、小児がんをはじめとする難病の治療を受けるなど、専門の医療機関に入院・通院しているお子さんと付き添われるご家族の方に安心して我が家のようにご滞在いただけることを目指している施設です。

利用されるご家族のプライバシーを守りつつ、そのご家族同士の交流を図ることができるように、またご家族にとって精神的・経済的なご負担の軽減にお役にたてる施設となるよう努めています。



### ● 地域とのコミュニケーション

日本化薬グループは、事業場のある地域社会とともに発展を続けるために「地域コミュニティ」とのコミュニケーションを積極的に行い、地域に根差した企業グループとして、共存・共栄を図ります。







世界に広がる  
日本化薬グループ



## 会社概要

- |             |   |
|-------------|---|
| 会 社 名       | ● 日本化薬株式会社  |
| 代 表 者       | ● 代表取締役社長 涌元 厚宏   |
| 設 立 年 月 日   | ● 1916年(大正5年)6月5日   |
| 資 本 金       | ● 14,932百万円   |
| 本 社 所 在 地   | ● 〒100-0005<br>東京都千代田区丸の内2丁目1番1号 明治安田生命ビル19、20階                                 |
| 電 話         | ● 03-6731-5200(大代表)   |
| ホ ー ム ペ ー ジ | ● <a href="https://www.nipponkayaku.co.jp/">https://www.nipponkayaku.co.jp/</a> |

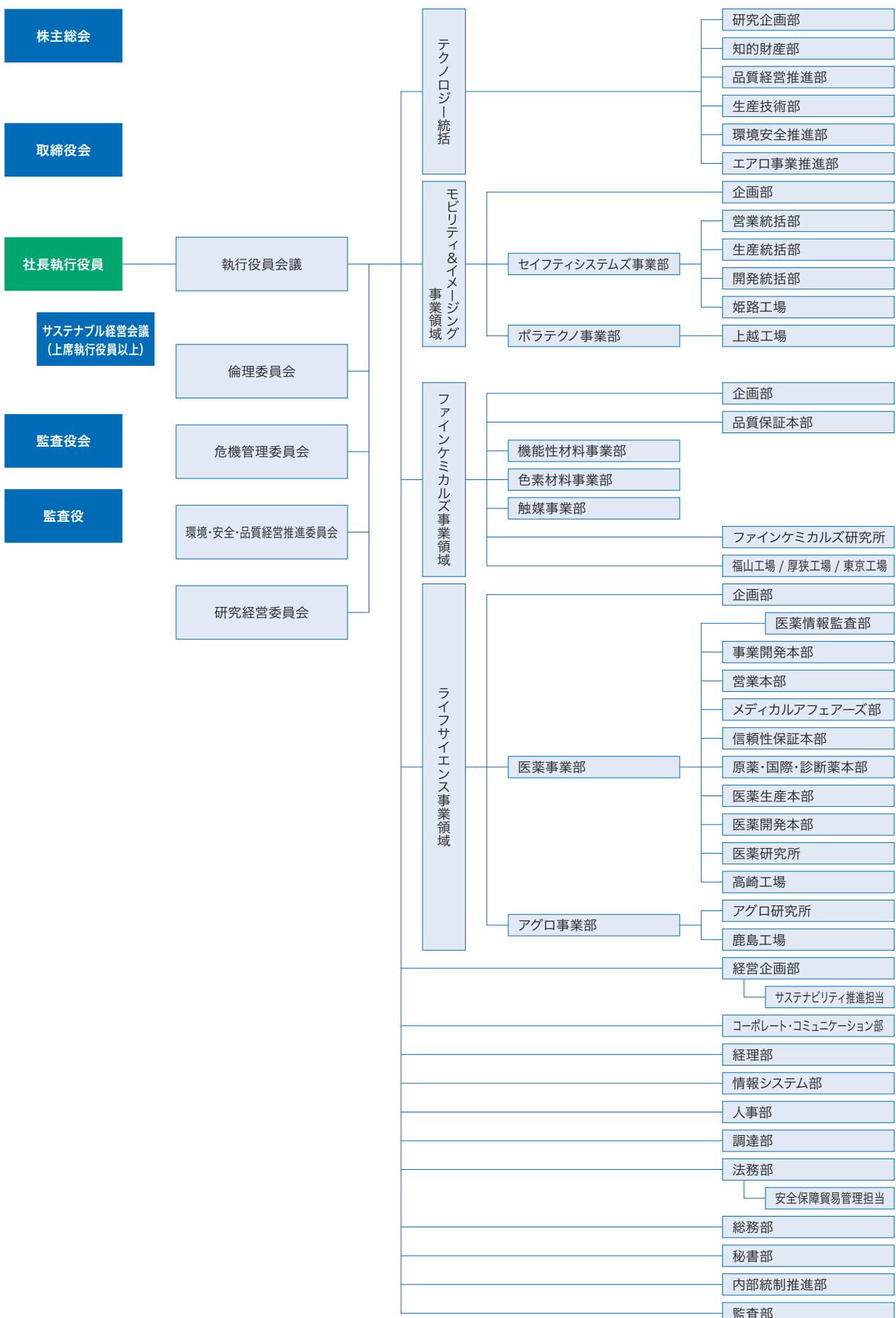


## すきまから世界へ、そして次の未来へ—生産拠点一覧

### モビリティ&イメージング事業領域



# 業務組織図 (2023年11月1日現在)



世界的すきま発想。

日本化薬

## 世界的すきま発想。

“世界的すきま発想。”とは日本化薬グループのコンセプト・スローガン。すきまとは、まだ誰も知らない価値の眠る場所を指します。私たち日本化薬は規模に頼るのではなく、独自技術で世界に必要とされる高付加価値な製品を提供し、ニッチ市場のグローバルNo.1を目指します。



すきまから世界へ、未来へ。

「世界的すきま発想。」から生まれた  
私たちの技術は、華やかにスポットライトを浴びるものではないかもしれません。  
でも、今の人々の暮らしやさまざまな産業をしっかりとささえ、未来につなげていきます。  
今後もすきまから世の中をささえる技術を創りだし、  
世界に、未来に貢献していきます。  
今後の日本化薬グループに、どうぞご期待ください。



# 世界のすきま発想。



WERはともかく



日本化薬株式会社／〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目1番1号 明治安田生命ビル19、20階  
TEL 03-6731-5200(大代表) ホームページ <https://www.nipponkavaku.co.jp/>

